

八丈島でヒキガエル駆除用カゴワナに入っていたクサガメ

後藤康人

133-0056 東京都江戸川区南小岩5-21-11-503 えどがわ生物懇話会

Mauremys reevesii captured by trap for removal of *Bufo japonicus formosus* in Hachijo Island in 2015.

By Yasuhito GOTO

EDOGAWA Social Meeting on Biology, 5-21-11-503, Minami-Koiwa, Edogawa, Tokyo, 133-0056, Japan.

伊豆諸島の南部に位置する八丈島は、東京都心部から南へおよそ280km離れた孤立大型離島であり、過去に大陸と繋がったことがない海洋島とされる。周囲 58.91 km。面積 69.11 km²。人口 7601 人(2017年6月1日現在)。島の基幹産業は花卉園芸で、例えば主要品目のフェニックス・ロベレニー(シンノウヤシ)は大正5年に島に移入された植物ながら、今では世界有数の栽培地となっている(八丈町, 2017)。一方、近年の岡本他(2011)の調査時には外来爬虫両棲類7種を採集・確認しており、非意図的に持ち込まれる外来生物が多いことも指摘されている。島嶼ゆえの独自で脆弱な生態系を有しながら、経済面では移入植物を積極的に利用してきた歴史を持つ、自然保護の観点からはややこしい事情を抱えている島といえる。

筆者は去る2015年2月7日、八丈島の中央部にある和泉親水公園(八丈町三根)の池で、クサガメ1頭を採取した(図1)。八丈町では国内外来種に相当するアズマヒキガエルの駆除を実施している(後藤・岩崎, 2012)。クサガメはカエル駆除用に設置されたカゴワナ(カニカゴ)に入り込んでいた。採取時の背甲長は80mmで、腹甲の年輪から2歳と推定した。

八丈島における淡水棲カメ類の侵入はあまり知られていないが、筆者は2012年9月に同じ場所で地元の人がアカミミガメに餌付けをしている場面を目撃している。本件は筆者にとって2度目のカメ確認事例であり、クサガメは初見だった。採取した個体は筆者が自宅へ持ち帰り、現在も飼育継続中である。2015年以降も八丈島への渡島を継続的に行っているが、今のところアカミミガメやクサガメが増加している様子は見られない。



図1. 和泉親水公園の池(左)と採取時のクサガメ(右)(2015年2月7日撮影)

引用文献

後藤康人・岩崎由美. 2012. 2012年に八丈島で行われたアズマヒキガエル駆除について. 爬虫両棲類学会報2012(2):112-114.

八丈町役場. 八丈町公式サイト(<http://www.town.hachijo.tokyo.jp/>). Last access 2017/6/1

岡本卓・栗山武夫・五箇公一. 2011. 八丈島の外来性爬虫両生類の現状. 爬虫両棲類学会報2011(1): 87. (講演要旨)